

第2分科会【地歴・公民】

地歴・公民科の学びを通じて育成したい資質・能力

報告者▶ 海老瀬将太（京都府立鴨沂高等学校教諭）

報告者▶ 徳永 俊太（京都教育大学大学院連合教職実践研究科准教授）

コーディネーター▶ 藤田 五樹（京都府教育委員会高校教育課指導主事）

主体的・対話的で深い学びを通じて、課題の多面的・多角的考察および課題解決に向けた公正な判断力の育成を目指す高等学校倫理の授業実践を報告する。また、新学習指導要領での目標も見据え、地歴・公民の学びを通じて育むべき力とはどのようなものなのか、大学からお招きする登壇者に解説をいただく。

概 略

はじめに鴨沂高等学校教諭 海老瀬将太氏が実践発表を行った。海老瀬氏は冒頭、未来社会の姿を映し出す「20XX in Society 5.0 〜デジタルで創る、私たちの未来〜」（経団連作成）の動画を提示して、動画に描かれるような未来社会を生きていくには、今までにない価値を創造し活用する力が必要であり、その力の育成のためには教育が変わることが必要だと効果的に示された。知識集積に加え、AIやIoT技術をうまく活用する「創造力」を身に付ける授業が今後は増えていくとのことである。その授業展開の核になるのが新学習指導要領に記載される「主体的・対話的で深い学び」であるが、海老瀬氏は学びを主体的で深くするために「対話」に焦点を当て授業改善を図っており、倫理の授業におけるその実践例を発表された。「先哲（教材）との対話」⇒「他者との対話」⇒「自己との対話」という流れで授業を組み立て、それぞれを「個人ワーク＝先哲（教材）との対話」⇒「グループワーク（吟味）・中間発表・グループワーク（再構成）・最終発表＝他者との対話」⇒「個人レポート＝自己との対話」という形で実践している授業例を示された。

続いて京都教育大学准教授 徳永俊太氏が発表された。新学習指導要領の着目点は、児童生徒が「何ができるようになるか」であるが、徳永氏によると「できる」子どもたちは本当に「わかっているのか」という視点を持つことが重要とのことである。加えて、OECDの定義するエージェンシー（自ら考え、主体的に行動して、責任を持って社会変革を実現していく力）を育むことにより、個人の幸福だけでなく、社会全体のウェルビーイングを捉えることができる子どもを育成していく必要性について述べられた。「地理歴史科」の目的は、子どもたちに、現在を理解し未来を創る能力を育み、当たり前を問い直す批判的な見方・考え方を育むことであり「公民科」の目的は、子どもたちに民主主義社会の構築・発展に寄与する力を育むこととされた。「大人が見せる社会を子どもが見ている」という印象的な言葉と共に、民主主義が子どもたちに根付かないとすればそれは社会に民主主義が構築されていないからであり、子どもに民主主義の体現を問う前

に、まず大人が体現できているのかを問うべきであるとされた。

全体討論の内容

質疑応答

- ・「探究の高度化」と言う時の「高度」の定義とは何か。
→例えば小学校では身近なことの探究から始めていくこと。高校では探究の対象を社会全体へと広げながら、小・中学校で取り組んだ内容よりも深く物事を探っていくこと。(徳永氏)
- ・事例発表の授業時における教科の協力体制はどのようなものであったか。
→文部科学省指定のプロジェクトとリンクさせ、教科全体で取り組む体制をつくり、他の教員と内容等を協議しながら複数のクラスと合同で展開した。(海老瀬氏)
- ・事例発表の授業においてコンピテンシーをどのようにして測っているか。
→正直なところ、点数化にはそぐわないので、評価形態については現在も模索中である。(海老瀬氏)
→評価をする際にはコンテンツベースにならざるを得ないが、新学習指導要領では道徳での評価のあり方などを参考にすることもできるのではないか。(徳永氏)
→教科指導の観点からは単元目標をしっかりと設定して、目標に準拠して評価をしていくことが大切である。(徳永氏)

到達点と今後の課題

新学習指導要領においては、地歴・公民科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを通じて「思考力・判断力・表現力」を育成することが求められる。そのような中で、鴨沂高等学校海老瀬氏の実践発表では、直面する課題の多面的・多角的考察および課題解決に向けた公正な判断力の育成をいかにして実現するか、その一端を見せることができたのではないかと。また、高等学校地歴・公民科の究極の目的は、子どもたちに民主主義を根付かせ、社会の中で民主主義を体現できる力を育むことであるという京都教育大学徳永氏の提言は、参加者にも深く印象に残り、地歴・公民科の授業において指導すべきことを再認識でき、今後の指導のあり方について示唆に富むものとなったのではないかと思われる。

今回はオンラインでの開催となり、参加者との意見交流を通じて高校・大学の発表内容をさらに深く掘り下げて、新たな知見の獲得へとつなげる活動を行えず残念ではあったが、両氏の発表内容は参加者にも大変参考となるものであり、分科会の目的である「地歴・公民科の学びを通じて育成したい資質・能力」を十分に提示できたのではないかと考える。

スライド1

2020. 12.5(土)
高大連携教育フォーラム
第2分科会「地歴・公民」

地歴・公民科の授業を通じて
育成したい資質・能力
～ 未来を「生きる力」～

 京都府立鴨沂高等学校
教諭 海老瀬 将太

スライド2



20XX
in SOCIETY 5.0

経団連「20XX in Society 5.0～デジタルで創る、私たちの未来～」

スライド3

自動運転LAB. 最新のモビリティ業界
テクノロジー系ニュースメディア

自動運転ラボ > 国内ニュース

中型自動運転バスの実証実験、まず滋賀県大津市などでスタート 運転手乗車型で安全確保

2020年度中に5地域で実施

自動運転ラボ編集部 - 2020年7月17日 05:46

経済産業省と国土交通省は、2020年7月12日から滋賀県大津市地域（バス運行事業者：京阪バス）で、7月20日から兵庫県三田市地域（バス運行事業者：神姫バス）で、「中型自動運転バス」による実証実験を開始することを発表した。

過去の公募で選ばれた5地域における実証実験のうち、2地域における実証実験がまずスタートする形だ。運行中はともに運転手が乗車する形で実施され、安全のためにいつでも手動操作ができる環境で走行する。

出典：自動運転LAB（https://jidouten-lab.com/u_middle-class-autonomous-bus-start）

スライド4

新しい生活様式

今までにない 価値を 創造する

今までにない 価値を 活用する



スライド5

・これからの学校・教育の在り方が変わってきそう。
知識集積にプラスして、AIやIoT技術をうまく活用する「創造力」を身につける、磨く授業がふえていくのでは・・・？

スライド6

生きる力
学びの、その先へ

新しい学習指導要領

学んだことを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性など

実際の社会や生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力など

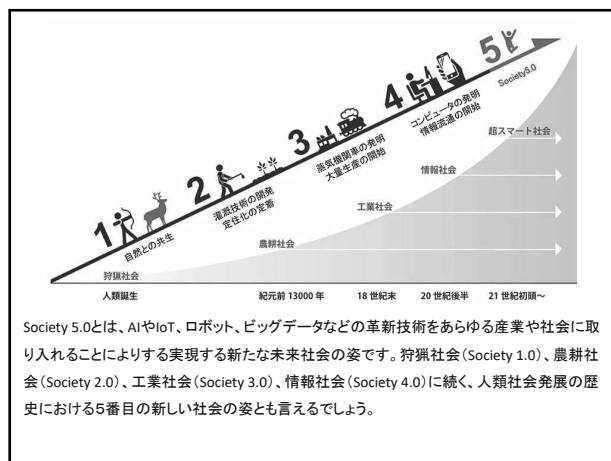
社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

スライド7

本発表の流れ

- ① Society 5.0 と新学習指導要領
- ② 「地歴公民科」と主体的・対話的で深い学び
- ③ 授業実践例の紹介

スライド8



スライド9

IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。

人工知能(AI)により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。

スライド10

Society 5.0では、ビッグデータを踏まえたAIやロボットが今まで人間が行っていた作業や調整を代行・支援するため、日々の煩雑で不得手な作業などから解放され、誰もが快適で活気に満ちた質の高い生活を送ることができるようになります。

スライド11

学んだことを人生や社会に生かそうとする

学びに向かう力、人間性など

実働の社会や生活で生きて働く知識及び技能

未知の状況にも対応できる

思考力、判断力、表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、三つの力をバランスよく育みます。

スライド12

本発表の流れ

- ① Society 5.0 と新学習指導要領
- ② 「地歴公民科」と主体的・対話的で深い学び
- ③ 授業実践例の紹介

スライド 13

第3節 公民科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

スライド 14

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、生徒にとって政治や社会が一層身近なものとなっており、高等学校においては、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまでに求められる。

そのため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要。特に、生徒が各教科・科目等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実が必要。

〔情報を的確に理解し効果的に表現する、社会的事象について資料に基づき考察する、日常の事象や社会的事象を数理的に捉える、自然の事物・現象を観察・実験を通じて科学的な概念を使用して探究する など〕

文部科学省:高等学校学習指導要領の改訂のポイント より

**主体的・対話的で
深い学び**

に向けた 授業改善

➡

対 話

に焦点を当てた 授業改善

スライド 15

(1) 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。



先哲(教材)との対話

スライド 16

(2) 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。



クラスメイト

他 者 と の 対 話



教 員

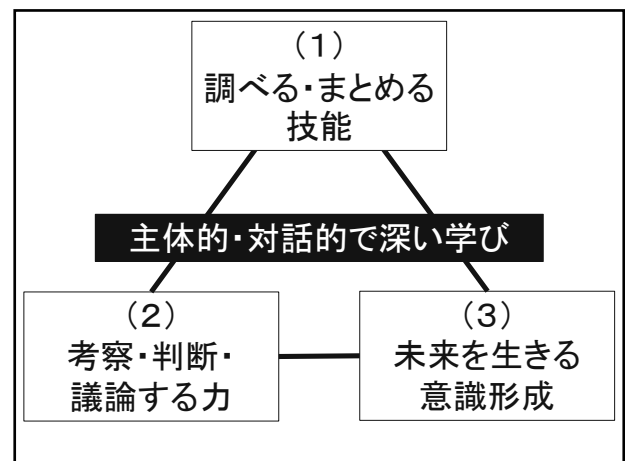
スライド 17

(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。



自 己 と の 対 話

スライド 18



スライド 19

本発表の流れ

- ①Society5.0 と新学習指導要領
- ②「地歴公民科」と主体的・対話的で深い学び
- ③授業実践例の紹介

スライド 20

足 跡 を残す授業

スライド 21

3年必修 プリント no.1

3年 一 冊 目 前

これから学ぶ「倫理」とは

授業担当者による「倫理を学ぶ意義」

～ 一度きりの人生、絶対に幸せな方がいい！ ～

平均寿命が90歳を超える中、幸せな時間を長く過ごすことはみんな願っている。けれども、「幸せ」「よく生きる」ってなんだろうかな？

【作業】 あなたが考える「幸せ」、次に「よく生きる」とはなんだろうかな？

様々な人たちの「幸せ」を求めると人によって、個人の価値観によって多岐にわたる。そして自分自身に譲りかねず。

そして、自分たちの「幸せに生きる道」を掲げていきます。

授業計画

学習指導要領「倫理」より

人間としての生きかたについての見方・考え方を磨かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて積極的たりする活動を通して、広い視野に立ち、人間性豊かな精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる準備で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

① 古今東西の幅広い文化的価値観を通して、現代の諸課題について深く多角的に自分に関わりかけることや現代の「社会の倫理（道徳観）」を自覚する

② 多岐にわたる倫理観を比較検討して対応する態度、判断力、表現力を身に付ける

③ 自分たちの「幸せに生きる道」を考えた、「社会倫理の哲学」を自分の言葉で表現できる

スライド 22

その時、その一瞬の「私」を記録する
⇒ 自分の成長過程を知り、深めていく

第1回授業 → 最終回授業

REPORT REPORT REPORT REPORT REPORT REPORT

スライド 23

授業実践例の紹介

単元：国際社会に生きる日本人としての自覚

1 日本の社会と風土

テーマ 「日本人」って一体何なのだろうか。

第3学年

講座A(3年標準クラス 選択講座) 26名

講座H(3年発展文系 選択講座) 37名

3 組 (京都文化コース) 34名 計97名

スライド 24

1組	2組	3組	4組	5組
1 2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5

・1グループ、4～5人で構成

6組	7組	8組	9組	10組
1 2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5

・3つの講座から1グループを編成

11組	12組	13組	14組	15組
1 2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5

・各グループに1台iPadを配布

16組	17組	18組	19組	20組
1 2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5	2 3 4 5

21組	22組	23組	24組
1 2 3 4	2 3 4	2 3 4	2 3 4

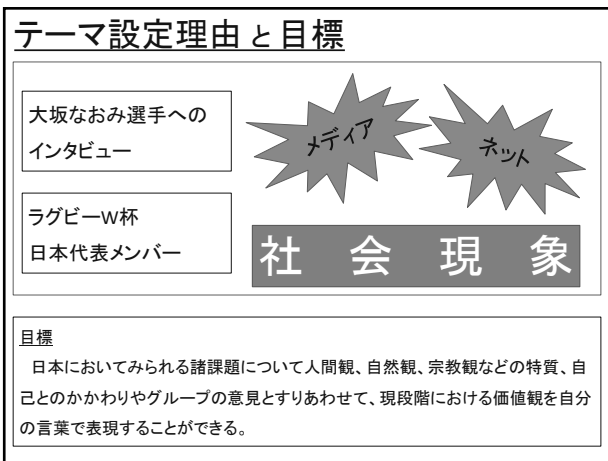
スライド 25



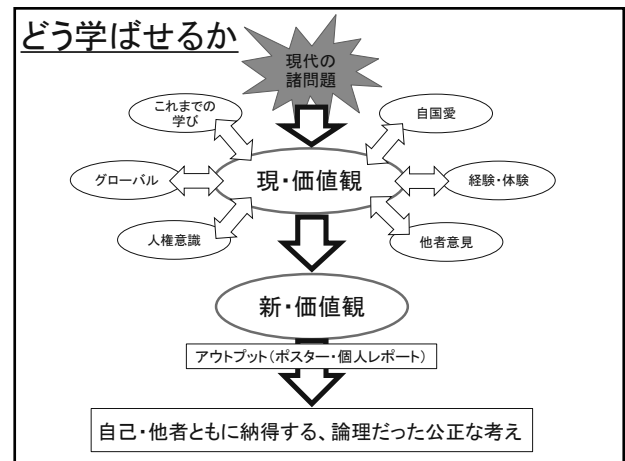
スライド 26



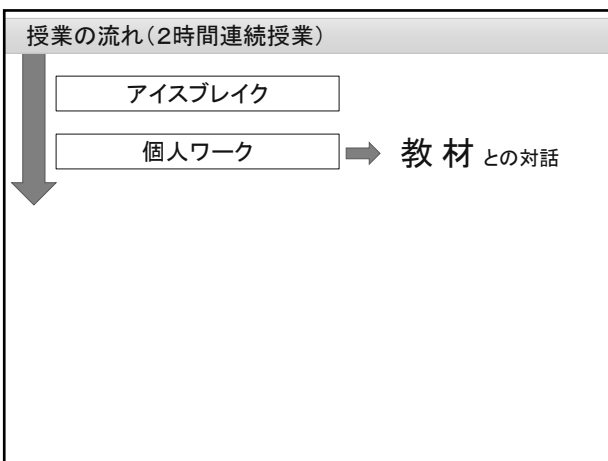
スライド 27



スライド 28

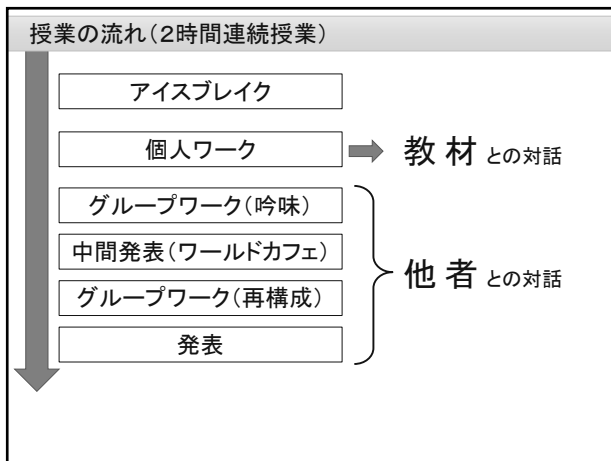


スライド 29

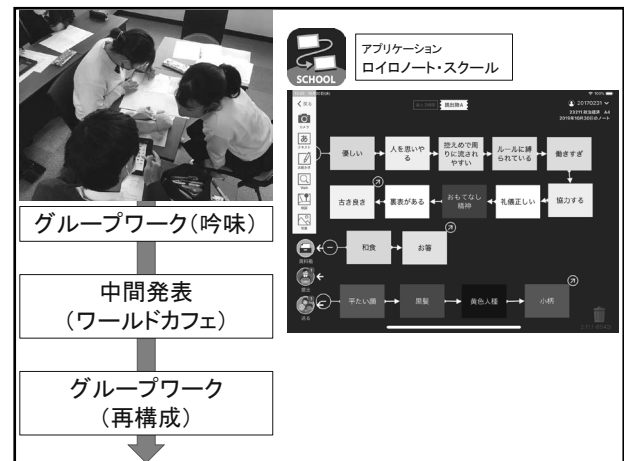


スライド 30

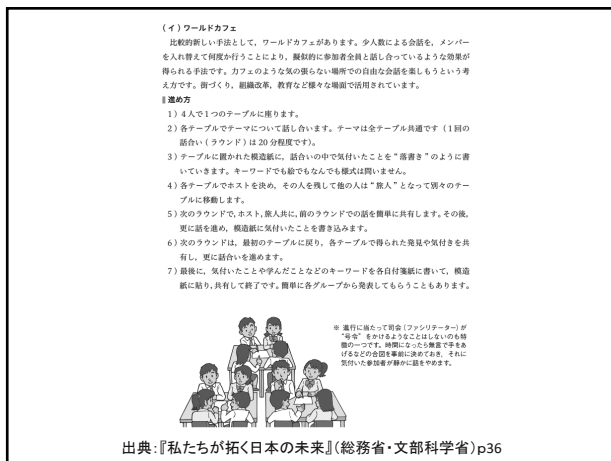
スライド 31



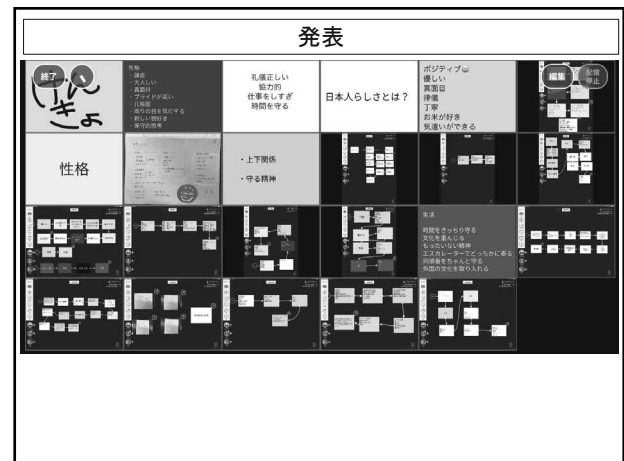
スライド 32



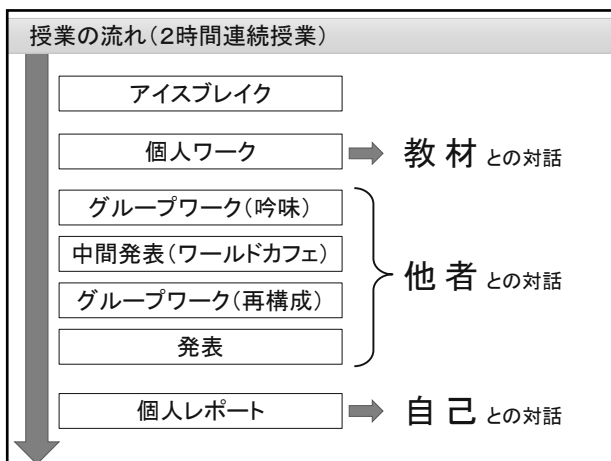
スライド 33



スライド 34



スライド 35



スライド 36

○作業： 今回のグループワークから見出せたあなたが考える「世間入らしきの態度にあるもの」についてあなたの言葉でまとめてみよう。

スライド 37

授業目標 とはまた別に

3講座合同で協働作業を行うことにより、各生徒の長所が存分に活かされ、新たな価値観の創造、自己の価値観の再構成をねらいとする。

スライド 38

A講座(標準クラス)
 ペア・グループワークが活発
 ⇒ 感情的・感覚的発言が多くみられる。

H講座(発展文系)
 情報を取捨選択して論理的な思考がある程度できる
 ⇒ 主観的で一面的な意見に陥ることが多い。

3組(京都文化コース)
 協働作業を数多くこなし、アウトプット能力が高い

スライド 39

標準	1組	2組	3組	4組	5組
京都文化	2	2	2	2	2
発展文系	3	3	3	3	3
	4	4	4	4	4
	5	5	5	5	5

それぞれのグループでそれぞれの役割を自覚し、責任を持って果たす

座学では見出せない「生徒の姿」
 → ファシリテート能力、デザイン力、空間把握能力、気遣い、世界観、コーディネート能力・・・

スライド 40

〇まとめ

課題・問題提起

知識・技能取得 → 考察・発表

深い学び

主体的 → 対話的

新たな気づき・学び ← 他者と共有

主体的・対話的で深い学び
 (アクティブ・ラーニング)
 の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。

一つ一つの知識が「わかった!」「おもしろい!」と入る授業に
 見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に

周りの人々と共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に
 自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育てる授業に

スライド 41

生きる力
 学びの、その先へ

学校の授業を支える習得と共有したい
 新しい学習指導要領

知識・技能取得 → 考察・発表
 新たな気づき・学び ← 他者と共有

学校

知識・技能取得 → 考察・発表
 新たな気づき・学び ← 他者と共有

家庭

知識・技能取得 → 考察・発表
 新たな気づき・学び ← 他者と共有

遊び

スライド 42

〇アクティブラーニングの視点

・「どう学ばせるか」の視点
 ・ファシリテーターであること
 ・「アクティブ」と「座学」の使い分け

自由な言語活動ができる空間

土台

授業

能力を発揮する場

スライド 43

参考文献等

文部科学省 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)

- ・平成29・30年改訂 学習指導要領 周知・広報ツール リーフレット
- ・高等学校学習指導要領の改訂のポイント
- ・主体的・対話的で深い学びの実現(「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善)について(イメージ)
- ・高等学校学習指導要領(平成30年告示)

内閣府

- ・Society5.0とは (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

経団連

- ・「20XX in Society 5.0～デジタルで創る、私たちの未来～」(ショート版)

SoftBank

- ・すごい明日体感ドラマ (https://tm.softbank.jp/sugoi_ashita/#/landscape)

時事ドットコム

- ・「日本人」とは何か ～ラグビーW杯を釜石で観戦して～【コメントライナー】
(<https://www.jiji.com/jc/v4?id=20191015com0001>)

教育ファンリテーターになろう グローバルな学びをめざす参加型授業(石川一喜 編・小貴仁 編) 弘文堂

スライド 1

これからの地歴科、公民科で育む力
：新学習指導要領を踏まえて

京都教育大学大学院連合教職実践研究科
准教授 徳永俊太
高大連携教育フォーラム 第2分科会【地歴・公民】
2020年12月5日

スライド 2

1. はじめに
：本発表の結論

- 「『〇〇社会』と『〇〇力』の間をつなぐ人間像をイメージし、めざす子ども像を描くことが重要」（石井, 2020, p.37）
- 子どもが学習する過程において、教師を含む大人はその人間像と合致した人間像を示せているのかを問い直す。

スライド 3

2. 新学習指導要領の着目点
：「できる」とはどういうことか

- 「何ができるようになるのか」の明確化
- 外化されるゆえの評価のしやすさ
- 「わかっているのか」という視点の必要性
- 体育科教育では、「できるが、わかっていない」生徒に着目してきた（中村, 1983）。
- 生徒の能力と権力を取り違える危険性（鈴木, 2012）

スライド 4

3. これからの求められる力
：生徒エージェンシー

- OECDがこれからの子どもたちに身につけてほしいと考えている力（詳細は最後のスライドのサイトを参照）
- 「変革を起こすために目標を設定し、振り返りながら責任ある行動をとる能力」
- 「エージェンシーを育むことにより、児童・生徒は個人と社会のウェルビーイングに向かって自らを方向づける（幸福な人生とよりよい社会の創り手になる）ことができるようになります」
- 発表者が考えるめざす子ども像の例
 - 他者の助けを借りて社会に参画する子ども
 - 他者が社会に参画することを助けられる子ども

スライド 5

4. 地理歴史科
：なぜ地理と歴史を学習するのか

- 現代における歴史の消費の問題（大河ドラマをどのように楽しむのか）
- 現在を理解し、未来を創るための歴史
- あたり前を問い直す批判的なものの見方、考え方を育む（例：学校はいつから4月始まりなのか）。
- 小学校よりも中学校で、中学校よりも高校で高度な学習を（「郷土をひらく」よりも高度な学習とは？）。

スライド 6

5. 公民科
：民主主義社会の構築・発展のために

- 主権者教育：社会に参画している人間として、教師と生徒は同等の立場
- 「民主主義の欠如とたたかう唯一の方法とは、より多くの民主主義を用いることにある」（ピースタ, 2014, p.182）
- 「よりよい民主主義を得るためによりよい市民が必要である、などと提案するのではなく、むしろ、よりよい市民となるためにはよりよい民主主義を必要とする、と提案したい」（ピースタ, 2014, pp.235-236. 括弧内の記述と傍点略）
- 子どもに求める前に、大人ができているのかを問う。

スライド7

6. おわりにかえて
：民主主義を実現する授業の方向性

- 授業において科学的であることを追求する。
 - 科学と民主主義の親和性 (cf. 反証可能性)
 - 「すべての国で、科学の方法と、権利の章典の意義とを子供たちに教えてゆかなくてはならない。品位も謙遜も、共同体意識も、そこから芽生えてくるだろう」(セーガン, 1997, 下巻pp.389-390)
- 生徒から学ぶ。
 - 「生徒であると同時に教師であるような生徒」
「教師であると同時に生徒であるような教師」
(フレイレ, 1979, p.81)

スライド8

取り上げた文献一覧、サイト

- 石井英真 (2020) 『授業づくりの深め方ー「よい授業」をデザインするための5つのツボ』ミネルヴァ書房。
- 鈴木翔著、本田由紀解説 (2012) 『教室内カースト』光文社。
- カール・セーガン著、青木薫訳 (1997) 『人はなぜエセ科学に騙されるのか (上)』『同 (下)』新潮社。
- 中村敏雄 (1983) 『体育実践の見かた・考えかたー評価・評定問題を核にして』大修館書店。
- ガート・ビースタ著、上野正道・藤井佳世・中村 (新井) 清二訳 (2014) 『民主主義を学習するー教育・生涯学習・シティズンシップ』勁草書房。
- パウロ・フレイレ著、小沢有作・楠原彰・柿沼秀雄・伊藤周訳 (1979) 『被抑圧者の教育学』並紀書房。
- 東京学芸大学次世代教育推進機構「『エージェンシー』に関する研究の成果」(<http://www.u-gakugei.ac.jp/~jisedai/202008seika/>) 2020年12月4日最終確認)